

令和３年度 第１回恵庭市学力・体力向上推進会議 会議録

〔開催日時〕 令和３年７月８日（木）１３：３０～１４：３５

〔開催場所〕 恵庭市民会館 ２階 中会議室

〔出席者（敬称略・順不同）〕

委 員／ 長岡 秀明（恵庭市教育委員会点検評価委員）

高桑 純（恵庭市教育委員会点検評価委員）

中山 舞（恵庭市ＰＴＡ連合会）

加藤 紀子（恵庭市小中学校校長会）

野口 俊之（恵庭市小中学校教頭会）

佐々木 保（若草小学校・柏陽中学校 学校運営協議会）

木村 博子（恵庭市教育委員会指導主事：学力向上アドバイザー）

事務局／教育長、教育部長、教育部次長、教育総務課長、教育総務課主査・スタッフ

※結城 健介 委員（恵庭市教育委員会点検評価委員）、河内 紀彦 委員（北海道ハイテクＡＣアカデミー）は所用により欠席。

〔傍聴者〕 １名

〔内 容〕

- １．開会
- ２．教育長挨拶
- ３．会議の概要について

事務局より、次の内容について説明

【説明要旨】

今年度も昨年度に引き続き９名に委員をお願いしており、任期は令和４年３月３１日まで。今年度の会議は、今回を含め３回開催する予定である。なお、委員への報酬及び旅費の支給は行わないが、公務以外での出席委員について、ボランティア活動が対象となるスポーツ安全協会の「スポーツ安全保険」に加入している。

４．議事

※ここから、長岡委員長が進行

学力・体力向上の取組について

事務局より、配布資料について説明した後、意見交換を行うにあたり、資料１の内容について次のとおり説明



① 学力向上について

「標準学力検査（NRT）」については、小学2年生から中学3年生までを対象に、毎年実施している。各校で結果を分析し、学習改善の取組に活用できることなどから、今後も継続して実施したい。また、本会議にて実施科目の追加について意見があったため、今後検討を進めたい。

「英検 I B A」については、平成30年度は中学2年生を対象に市独自で実施。令和元年度より北海道教育委員会の英語力向上事業として、中学1年生から3年生までを対象に3年間実施することとなった。実施を継続することで、経年比較が可能となること、また、結果が分かりやすく、学校毎の傾向や生徒個人の課題も的確に把握できるため、道教委事業が終了となった場合であっても継続して実施したい。

「ALTの配置、外国語指導に係る地域人材の活用」については、新学習指導要領への移行に伴う時数増に対応するため、ALTや地域人材による外国語指導時間数を増やしてきたが、引き続き各校における学習状況を確認し、ALTの増員や地域人材の指導時間の増加等について検討したい。

「教職員への研修」については、教職員への研修としてサマーセミナー・ウインターセミナーや校内研修の充実を図り、教職員の指導力向上や質の高い授業の実現を目指していきたい。

「ICT教育の充実」については、「GIGA（ギガ）スクール構想」に伴う児童生徒1人1台パソコンの整備を進めるとともに、既に整備している電子黒板や指導者用デジタル教科書も併せて使用し、ICTの授業や家庭学習に活用できるよう検討を進めたい。

「学習支援員等の配置」については、平成29年度から柏陽中学校に学習支援員を1名配置し、普通学級において配慮が必要な児童生徒に対応するための特別支援教育学校補助員も各校に配置している。引き続き配置人数や支援時間数の増について検討したい。

「地域による学習指導」については、学生ボランティアの協力や、学校運営協議会の活動として「放課後学習会」や「土曜スクール」などを実施。学校運営協議会は、今年度で全校設置が完了し、取組の拡充が期待できる。

② 体力向上について

「体育授業への支援」については、これまで「北海道ハイテクACアカデミー」から指導員を派遣し、小学校で体育授業を実施。派遣を受けた学校からは好評の意見があり、

「児童の体力・運動能力の向上」や「教員の指導力の向上」に効果的であることから、今年度は児童数の多い学校に対して時数の追加配分を行うことや、中学校における体育授業支援の試行実施も予定している。引き続き、派遣回数増や、中学校への拡充も検討したい。

「部活動指導員の配置」については、令和２年度から恵庭中学校の卓球部に１名を試行的に配置し、令和３年度は恵明中学校のバドミントン部に１名追加で配置し、専門的な指導を実施している。令和２年度からコロナ禍ということもあり十分な活動ができない状況ではあるが、アンケート結果では多くの生徒に技術力の向上を感じるとの意見を頂いたため、引き続き配置人数や任用時間数の拡大等について検討したい。

５．学力向上に係る情報提供（学力向上アドバイザーより）

木村委員より情報提供

【要旨】

令和２年度は新型コロナウイルス感染症が主だった１年だったように感じる。この１年の恵庭市内小中学生の活躍について新聞等の記事を用いて振り返ってみることとする。

２０２０年６月、柏陽中学校の生徒会により、市内１８の医療機関の方々へ感謝の気持ちを伝える応援メッセージを送った。５月は臨時休業中であったため、生徒たちは各家庭でメッセージを記入し、生徒会が集約し郵送した。

２０２０年９月、恵庭中学校の生徒が修学旅行で台風１０号の被災地の方々に対して寄せ書きを作成し、手紙を送付した。

２０２０年１１月、市制施行５０周年記念式典において市内小学校８校の代表が市民憲章を朗唱した。また、同式典において市内中学校の５校の代表が「子どもたちの誓い」と題して１人１人将来の夢を発表した。

２０２０年１２月、市内中学生１５名が「子ども未来議員」として、恵庭の将来を考える「恵庭子ども未来議会」が開かれた。生徒たちは７月の初会合で任命され、１０月の２回目の会合で一般質問を実施し、１２月の最終会合に向け提言書の作成を進めた。

２０２１年２月、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した恵庭第一病院に対して、市内小中学生が激励のメッセージや千羽鶴等を寄贈した。

２０２１年６月、恵庭第一病院の新型コロナウイルス感染者や職員が、上記のメッセージや千羽鶴により小中学生の優しさに救われたとの意見があった。

このような記事から、コロナ禍において恵庭市内の小中学生は、思いやりの精神や思いついたことを実行する力が備わってきているように感じる。このような成長は、教職員による指導や、平成２５年度から実施している「ふるさと教育」の成果によるものだと思っている。

６．意見交換

A委員：GIGAスクール構想の現時点における進捗状況を伺いたい。

事務局：令和２年度の時点で、市内小中学生約５，８００人のうち約３分の２の児童生徒分のパソコンを納品した。令和３年度は、各校のネットワーク増強工事やパソコン

の充電保管庫の整備等を随時実施している。工期は学校によって異なるが、既に工事が完了している学校については6月末から教室でパソコンを使用し、操作や電子黒板との連携等、実際の授業に活用し始めている。

B委員：GIGAスクール構想において、クロームブックというパソコンを使用しているが、現時点で教職員が円滑に使用することは難しいため、今後、教職員向けに研修を用意していただきたい。

事務局：現在、夏季休業や冬季休業の教職員研修においてICT機器に関する研修項目を組み入れることについて検討しており、教職員同士の情報共有の場を設けるなどの方策も進めていきたいと考えている。

C委員：保護者の中には、GIGAスクール構想について「いつ始まるのか」「なぜ1人1台端末が準備できているのに始まらないのか」といった声を聞くが、具体的な進捗状況を確認したい方が一定数いると思われる。

事務局：環境整備にかかる工事が完了した学校においては、学校のホームページ等で周知しているところだが、今後、市教委や各校から情報提供を行い、保護者との連携を進めていく予定である。

A委員：1人1台端末は、各々子どもたちが家庭に持ち帰って活用しても良いのか。

事務局：GIGAスクール構想の趣旨の1つでもあるが、学校の臨時休業、災害時などに学校に登校できない場合は各家庭で端末を使用することを想定している。各家庭のインターネット環境を利用し、学校と連携していくといった運用を検討している。

D委員：家庭のインターネット環境は様々ではあると思うが、環境が整っていない家庭に対してルーターの貸し出しなどの支援は行っているのか。

事務局：令和3年度、各家庭に対して調査を実施したところ、インターネット環境が整っていない家庭が少数だが確認できたため、そのような家庭に対してはルーターの貸し出しを実施する予定である。

E委員：ルーターを購入する予算はあるのか。

事務局：既に令和2年度予算で400台購入している。調査によると、インターネット環境が全く整っていない家庭は少ないため、現時点で保管しているルーターの数量で対応することが可能と考えている。

F委員：1人1台端末事業は予算や工事、使用ルールなど考えるべきことが多数あると思う。すべての懸案事項を解決し実施していくには、時間がかかってしまうことは否めないことと思う。

先日、既に1人1台端末を取り入れた授業を行っている恵明中学校の授業を参観した。英語の授業では、生徒が端末に向かって英語を話し、発音が正しいかどうか端末がチ

ェックするという光景をみた。また、国語の授業では、文章の中でわからない単語があっても端末で確認できるため、従来のように辞典で調べる必要がない。非常に素晴らしい時代になってきていると感じた。

G委員：恵北中学校では現在複数の部活動を指導している教職員も多く、教職員の負担が大きいと感じている。部活動指導員の配置は、そのような実態の解消につながると思っているため、今後も継続していただけるとありがたいと思っている。

事務局：部活動指導員の配置を開始して2年目となるが、効果が感じられるので、今後も継続していく予定である。

7. 次回の会議日程について

8. 閉会